



インストールとライセンス

この章は、次の項で構成されています。

- [ダウンロードしたソフトウェアからのインストールまたはアップグレードが失敗する \(P.5-2\)](#)
- [ドライブがいっぱいになる \(P.5-2\)](#)
- [ライセンス ファイルの削除 \(P.5-5\)](#)
- [ライセンス ステータスの確認 \(P.5-5\)](#)

ダウンロードしたソフトウェアからのインストールまたはアップグレードが失敗する

シスコの Web サイトから Cisco Unity Connection をダウンロードして、ディスク焼き付け用アプリケーションで焼き付け対象ディスクを確認せずにディスクに焼き付けた場合は、焼き付け対象ディスク上のエラーを原因とするさまざまなエラーで、Connection のインストールまたはアップグレードが失敗することがあります。次の操作を行うことをお勧めします。

- ソフトウェアをダウンロードするときに MD5 値をメモし、Checksum generator を使用して、ダウンロードした .iso ファイルの MD5 チェックサムが Cisco.com に表示されているチェックサムと一致することを確認する。インターネットで無料のチェックサム ツールを入手できます。
- ダウンロードしたソフトウェアをディスクに焼き付けるときに、焼き付け対象ディスクの内容を確認するオプションを選択する。この選択により、ディスクの内容と、ダウンロードした .iso ファイルの内容が比較されます。

ドライブがいっぱいになる

ドライブがいっぱいになる原因として、次の 2 つが考えられます。該当する項を参照してください。

- [Connection がアンインストールされ再インストールされた \(P.5-2\)](#)
- [G: ドライブが欠落している \(P.5-3\)](#)

Connection がアンインストールされ再インストールされた

Cisco Unity Connection をアンインストールしても、Connection のアンインストーラは E: ドライブおよび F: ドライブ上にある Connection のデータベースとログのディレクトリを削除しません。その後、Cisco Platform Configuration ディスクを使用してオペレーティング システムを再インストールせずに Connection を再インストールすると、Connection のセットアッププログラムは、データベースとログをインストール ドライブからドライブ E: および F: に移動できません。なぜなら、移動先の場所にそのディレクトリがすでに存在しているためです。

インストール ドライブ上のデータベースが使用されているため、データベースの移動は複雑でエラーが発生しやすいプロセスとなります。この問題が発生した場合は、次の作業を行って問題を解決することをお勧めします。

1. Connection Disaster Recovery Backup ツール (DiRT) を使用して、Cisco Unity Connection のデータをバックアップします。Disaster Recovery Backup ツール (およびタスク 3. で必要な Disaster Recovery Restore ツール) の最新バージョンは、http://ciscounitytools.com/App_CUC_DisasterRecoveryTool.htm から入手可能です (Cisco Unity Tools Depot にも、両方のツールがあります)。Disaster Recovery ツールの使用方法については、DiRT のヘルプを参照してください。
2. Connection サーバで、すべてのソフトウェアを再インストールし、再設定します。『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 1.x』の「Cisco Unity Connection 1.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章に記載されているタスク 2 およびタスク 4 ~ 7 を実行します。



注意

Windows を再インストールして再設定する際には、サーバに、再インストール前と同じ名前を指定する必要があります。同じ名前を指定しないと、Connection サーバにインストールしたすべての SSL 証明書が無効になります。

「サーバのセットアップと設定、およびライセンス ファイルの入手」の章の次の項は、スキップできます。

- 「メモリ アップグレードの取り付け (特定のサーバのみ)」
- 「サーバのセットアップ」
- 「デュアル NIC の構成」
- 「Cisco Unity Connection ライセンス ファイルの入手 (Connection サーバのみ)」

『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 1.x』は、
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html から入手可能です。

3. Connection Disaster Recovery Restore ツールを使用して、タスク 1. でバックアップしたデータを復元します。

G: ドライブが欠落している

Cisco Unity Connection サーバの USB ポートにデバイスが接続されているときに Windows をインストールした場合は、そのデバイスがストレージデバイスと見なされ、そのデバイスにドライブ文字 G が割り当てられた可能性があります (デバイスがリムーバブル ストレージ デバイスでない場合でも、この問題が発生します)。その結果、Connection のセットアップ中にインストール ドライブから移動されるはずのデータ (メッセージ ファイルのディレクトリや Connection の言語を含む) がインストール ドライブに残り、ドライブがすぐにいっぱいになります。

ドライブ G: が USB デバイスに割り当てられているかどうかを確認する

-
- ステップ 1** Cisco Unity Connection サーバで、Windows エクスプローラを開きます。
 - ステップ 2** [表示] メニューの [詳細] をクリックします。
 - ステップ 3** 左のフレームで、[マイ コンピュータ] をクリックします。
 - ステップ 4** 右のフレームで、ドライブ C:、D:、E:、F:、および G: が [ローカル ディスク] であることを確認します。
 - ステップ 5** デバイス タイプが [ローカル ディスク] でないドライブがある場合は、次の「[欠落しているドライブ G: に関する問題を解決する](#)」の手順を実行します。
-

欠落しているドライブ G: に関する問題を解決する

-
- ステップ 1** Connection Disaster Recovery Backup ツール (DiRT) を使用して、Cisco Unity Connection のデータをバックアップします。



- (注) Disaster Recovery Backup ツール (および Disaster Recovery Restore ツール) の最新バージョンは、http://ciscounitytools.com/App_CUC_DisasterRecoveryTool.htm から入手可能です (Cisco Unity Tools Depot にも、両方のツールがあります)。Disaster Recovery ツールの使用方法については、DiRT のヘルプを参照してください。
-

ステップ 2 サーバに応じて、次のうち適切な手順を実行し、既存の RAID コンフィギュレーションを削除します。



注意 RAID コンフィギュレーションを削除すると、Connection サーバ上のアプリケーションとデータがすべて削除されます。

Hewlett Packard 製の Connection サーバの場合：

- a. サーバを起動します。Ctrl-A を押して Adaptec RAID Configuration Utility を起動するように要求されたら、**Ctrl-A** を押します。
- b. [Array Configuration Utility] を選択し、**Enter** キーを押します。
- c. [Manage Arrays] を選択し、**Enter** キーを押します。
- d. RAID アレイのリストで、最初の RAID アレイを選択し、**Del** キーを押してそのアレイを削除します。
- e. すべての RAID アレイを削除するまでステップ d. を繰り返します。
- f. ユーティリティを終了します。
- g. 変更内容を保存するように要求されたら、保存するオプションを選択します。

IBM 製の Connection サーバの場合：

- a. サーバを起動し、システムの POST 時に適切なキーを押して、IBM ServeRAID Mini Configuration を起動します。ほとんどの IBM サーバの場合、適切なキーとは **Ctrl-I** です。
- b. IBM ServeRAID Mini Configuration の [Main Menu] で、[Advanced Functions] を選択し、**Enter** キーを押します。
- c. IBM ServeRAID Mini Configuration の [Advanced Functions Menu] で、[Restore to Factory-Default Settings] を選択し、**Enter** キーを押します。
- d. 画面の指示に従います。

ステップ 3 Connection サーバで、すべてのソフトウェアを再インストールし、再設定します。
『Cisco Unity Connection インストールガイド Release 1.x』の「Cisco Unity Connection 1.x システムのインストールに必要なタスクの概要」の章に記載されているタスク 2 およびタスク 4～7 を実行します。



注意 Windows を再インストールして再設定する際には、サーバに、再インストール前と同じ名前を指定する必要があります。同じ名前を指定しないと、Connection サーバにインストールしたすべての SSL 証明書が無効になります。

「サーバのセットアップと設定、およびライセンス ファイルの入手」の章の次の項は、スキップできます。

- 「メモリ アップグレードの取り付け (特定のサーバのみ)」
- 「サーバのセットアップ」
- 「デュアル NIC の構成」
- 「Cisco Unity Connection ライセンス ファイルの入手 (Connection サーバのみ)」



(注) 『Cisco Unity Connection インストレーションガイド Release 1.x』は、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html から入手可能です。

ステップ 4 Connection Disaster Recovery Restore ツールを使用して、**ステップ 1** でバックアップしたデータを復元します。

ライセンス ファイルの削除

Cisco Unity Connection Configuration Assistant を使用することにより、複数のライセンス ファイルを追加できますが、ライセンス ファイルを削除することはできません。

ライセンス ファイルを削除するには、Cisco Unity Connection Administration で、[System Settings] > [Licenses] を展開します。[Licenses] ページで、削除するライセンス ファイルのチェックボックスをオフにして、[Delete Selected] をクリックします。

ライセンス ファイルは、システムから物理的に削除されませんが、インストールされていないこととなります。[Licenses] ページのファイルのリストからライセンス ファイルを削除するには、Program Files\Cisco Systems\Cisco Unity Connection\Licenses ディレクトリからファイルを削除します。

ライセンス ステータスの確認

Cisco Unity Connection のライセンス ステータスを確認するには、Cisco Unity Connection Administration で [System Settings] > [Licenses] を展開します。[Licenses] ページの右上隅にある [Related Links] で、適切なレポートリンク ([Run License Report] または [View License Usage]) をクリックします。[Run License Report] をクリックすると、すべてのライセンス違反が表示されます。[View License Usage] をクリックすると、すべてのライセンス カウントが表示されます。

